

はつらつ部会研修会

宇仁校区はつらつ部会を構成する区長会、民生児童委員、シニアクラブ、女性会、PTA、消防団、社会福祉協議会が、今後高い確率で起こりうる南海トラフ地震や災害に備えて、12月9日神戸市の「人と未来防災センター」へ視察に行きました。

最初にガイダンスルームで、1995年1月17日午前5時46分、兵庫県淡路島北部を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生し、高齢化が進む大都市を直撃して多くの人命が失われ、甚大な被害をもたらした出来事を体験した語り部の講話を聴き、シアターフロアでは映像と震災直後の街並みがリアルに再現された展示を視察しました。

また、こころのシアターでは、災害列島と言われる日本で暮らす私たちが実際に災害に遭遇したとき自らの命を守ることができるのか、そのためにはどうすべきかを問いかける「にげよう-大切な命を守るために-」を鑑賞し、日頃の備えの大切さを学びました。
(宇仁校区はつらつ部会)



うにバスの運転、3年3か月で定年退職！

令和2年10月に試験運行が始まった、宇仁ふれあいバス(うにバス)。その1か月ほど前、5人のボランティアが、「自家用有償運送車両」運転者の講習を受けたことを聞きました。

年齢が75歳までとのことでしたが、5人では運行が大変だと思い75歳以上でもよいかと申し入れ、小生も含めて2名が追加講習を受けました。ボランティアの内訳は国正町2名、田谷町2名、小印南町1名の計5名で小生の町からは誰も参加していなかったのも参加理由の一つです。運行前開始前の準備として、簡易ガレージの設置や運行関係書類作成用パソコンの手配等も手伝うことになりました。運行前にルート確認を2~3日かけて実施し準備を終えました。

試験運行開始当日、来賓として当時の西村市長にも参加していただき出発式を行いました。5人お客さんを乗せて第1便のハンドルを握りました。以後、月に4~5回の半日勤務で運転をしてきましたが、乗客には「便利で助かる」と喜んでいただきました。特に免許返納をされた方からは「ほんとうに有難い」と感謝の言葉をいただき、こちらが恐縮する思いでした。今までは少ない月で60人程、多い月には100人以上の方に利用してもらっています。今後も、少なくとも80人は乗車してもらいたいと思っています。

この度、令和6年で80歳になるのを機に運転ボランティアを定年退職させていただきます。この間、パンクが1回だけで、事故もなく運行できたのも、毎回車両の点検や運行指示を出して下さった縁の下の力持ちの管理者の方々のおかげだと感謝しています。運転ボランティアも3増1減で支障なく運行できています。運転ボランティアは半日単位で都合の良い日を申し出て勤務にあたることになっており、月に4~5回の勤務なら忙しい方でも参加できると思います。積極的なボランティアへの参加をお願いします。

今後も、住民の方々の暖かいご支援で高齢者の地域の足として「うにバス」を利用いただき、暖かく見守ってもらいたいと思います。また、いつの日にか利用者としてもお世話になりたいと思うこの頃です。有難うございました。
(うにバス運転手 繁田 昭彦(80))



運転最終日に乗ってくれた平野義人くん

編集雑感

例年だと2月号は記事が乏しく、紙面を埋めるのに苦労してきましたが、今年は沢山寄稿していただきありがとうございます。紙面の都合で掲載できていないものもあり、次回以降に持ち越しです。小学校児童の活躍を紹介する記事も多くなってきました。今後の活躍が楽しみです。
(情報部会)

小学生作文コンクールで内閣総理大臣賞受賞

地域の安全を守る警察官とのふれあいや思いをつづった第32回全国小学生作文コンクール「わたしのまちのおまわりさん」で田谷町の鷹取 遵君(宇仁小学校1年)が内閣総理大臣賞を受賞し読売新聞に掲載されましたので紹介します。低学年と高学年の2部門で計4347点の応募があり、その中の優秀作のひとつとして最高位の内閣総理大臣賞に選ばれました。



「おまわりさんのパパがおしえてくれたたいせつなことをぼくのパパは、しほほいのおまわりさんです。やすみのひは、いんたなうらなつていてくれたり、かぞくをえがおにするのがじょうずなやさしいパパです。

そんなパパにぼくは「たのしいなつやすみ、いままでにもたことのないようなかおで、しかられました。それは、ラジオがたいそうのかえりに、おともたちとついでに、してんしやでさかみちをおりるあそびをしていたからです。スピードがでてついでにのしかつたので、なんかいもしました。このことをしたパパはしけんなかおでぼくにういしました。「パパは、つうつうのおまわりさんだから、こどもがこつうつに「あつて、なくなたげんばをなんかいもみてきた。じこにあへは、かぞくみんながつらいおせいをする。ついでであそんではいけません。ぼくは、「おともたちがさそつてきた。ついでであそんでました。するとパパは、「わかっているよ。」「ついでであそんでました。するとパパは、「おともたちがまわつたときに、ちやうつしてあげるのがほんつうのおともたちだよ。たのしいことにながらわつてついでにやつたらだめだよ。」「ついでにしました。そのときのぼくはすなおに「ごめんささい。もうしませんが。」「がいえませんでした。

つぎのひのラジオがたいそうのかえりも、おともたち「さかをしてんしやでありよう。」「さそわれました。ぼくはゆうきをだして「あつてないから、やめよう。」「ついでにしました。きのう、パパのおはなをきいて、もし、したのどうにもくくるまがきたら、ぼくもおともたちもおおげがするかもしれないし、おとしよりやちいさいことがいたら、おおげがさせしてしまふかもしれないとおもったからです。

パパ、あのかきはちゃんといえなかつたけど、「ついでであそばない。」「びださない。」「やへくすくすよ。ぼくのいのちも、おともたちのいのちもたいせつにするからね。おしえてくれてありがとう。」

うにバスで小りょこう

今日加西のばーちゃんと、うにバスをのりついでかこ川まで行ってきました。行く前に時間をしらべました。ちょっとだけむつかしかったです。11時すぎのバスにのって中とみまで行った時、うにバスのうんてん手さんがネッピーバスの、のる券をくれてでした。ラッキーな気持ちになりました。ネッピーバスは市みんびょういんまであがりました。市みんびょういんははじめてでした。高いところにあつてまどから見たらきれいでした。グルーっと回つて市やくしよの前まで行きました。

次は北じょうてつ道にのりました。うすいむらさき色の電車で小さいえきがありました。あおえきからかこ川へ行きました。いっぱいの人でドアのところまで立たままでした。どのえきからもいっぱいのもつてきて、ぼくの体と頭がバラバラになりそうでした。かこ川でラーメンとぎょうざを食べて、帰りはたきのえきまでのりました。のってる人が少なくてすわれてうれしかった。帰りのうにバスのうんてん手さんが、さいごのうんてんの日だったので、たきのえきでいっしょにしゃしんをとりました。「おじちゃんありがとう」 きょうははじめてがいっぱいの、たのしい日でした。(孫の感想を聞き取りました)

宇仁郷のあゆみ 第二章 宇仁郷まちづくり協議会の群像達²³

宇仁郷まちづくり協議会

12. 市議会総務委員会に出席し宇仁小の早期建設着手を訴える(その2)

『2点目の問題は、平成23年3月には文部科学省の耐震基準値(iw値1.1)に対する宇仁小の耐震結果が公表されると聞いています。宇仁小をどうするかジャッジが下される時期ですので、安心・安全を願う保護者に解消策とその時期を明示していただきたい。今まで小学校の改築について、やります、やります、の言葉ばかりで振り回されてきたのが実態です。

3点目の問題は、新用地へ宇仁小が建設されれば八王子神社の表参道の返還が可能になり、新用地の放置問題も解決します。平成15年に用地を市が取得されてからずっと放置されてきましたが、それを宇仁小の校長さんや教頭さんが、そして我々が用地の草刈りを行い守り維持してきました。宇仁小改築問題がまた後ろ送りされ、新用地が活用されない場合新たな問題が発生します。用地取得の時、田谷町を中心にしていろんな方のご尽力で用地買収が出来ましたが、周辺の付帯・関連する地元要望に対応する資金がないために、田谷町が共有地売却費の一部を充当し、不足分の200万円を宇仁地区6町が負担した経緯があります。仮に現校舎で耐震化対策がなされた場合、私共は八王子神社表参道の返還問題と新用地の活用問題を抱えてしまうことになり、地元としては絶対新用地に宇仁小の移転建設をお願いするところです。』 --- 次号に続く

